

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

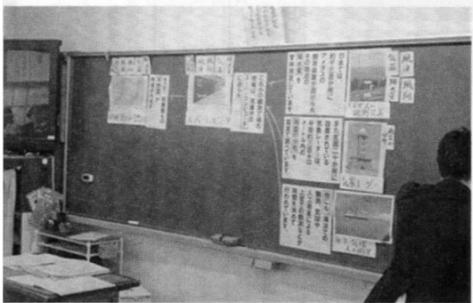
実践年度・タイトル		平成(30)年度 国語科授業のユニバーサルデザイン～考えが深まる授業を目指して～
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	説明のしかたの工夫をみつけ、話し合おう「天気を予想する」(光村図書)
	授業の目標	筆者が選んだ資料について考えることを通して、図や写真には筆者の意図があることを知り、一文にまとめることができる。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (5)年 (30)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input checked="" type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 ・長文になると段落どうしのつながりがつかめず、要旨がとらえきれない。 ・言葉と資料がつながらず、言葉や文の内容をイメージできない。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) ○筆者が説明文の中で使用した写真資料を提示し、段落ごとに、どの写真資料が使われ、筆者の意図は何かを考えてがかりとした。 ○段落どうしのつながりを考える時、写真資料と要点をカードを使って黒板上で移動させ、関係性を視覚化した。つながりが明確になり効果的だった。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	光村図書 5学年 教科書の写真画像 インターネットより、海洋での観測、気球、人工衛星、スーパーコンピューター、の画像
授業展開	授業展開・支援の手立て	1. 第2段落を読み、本文の内容を理解する。(写真資料提示) 2. 筆者の立場になって資料を自分で3つ選び、選んだ理由を話し合う。(写真資料で選択する) 3. 筆者が選んだ資料を知り、資料を選んだ筆者の意図を考える。(段落ごとのつながりを写真資料で動かしながら説明する) 4. 筆者の意図を一文でまとめる。(黒板上の授業展開をふりかえる)
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・上記の授業における指導の工夫と合わせて、ことばの教室で補充指導を行った。短冊状の教材文を使い、三段構成を操作しながら考える学習、問いと答え、論の展開を色分けした板書用のセンテンスカードを使い、内容と文章校正が視覚的にわかるようにした。 ・それらの結果、児童は意欲的に学習に取り組み、本文の記述を基に、説明文に使われている図や写真などの資料には、筆者の意図があることを理解することができた。

7 板書計画・指導の工夫



【焦点化】

- ・多くの資料が示されている第2段落を取り上げ、図や写真を選んだ意図を考えさせる。
- ・3つの資料から2つを選んだり、二者択一にしたりすることで自分の意見を明確にもてるようにする。
- ・初めに「アメダスの観測装置」「気象レーダー」「海洋、気球、人工衛星」の3つの中から1つを除外する視点で考えさせる。



【視覚化】

- ・予想図ができるまでの過程を図解された板書で示す。
- ・本文と対応しそうな資料を選ぶことを通して内容理解を図る。



【焦点化】

- ・3つの資料から2つを選んだり、二者択一にしたりすることで自分の意見を明確にもてるようにする。
- ・筆者は予想図を資料として用いたが、スーパーコンピュータを選んだ児童の意見も正しいことを話し合い、筆者の意図によって資料が選ばれることを確かめる。

【4】5年生「天気を予想する」

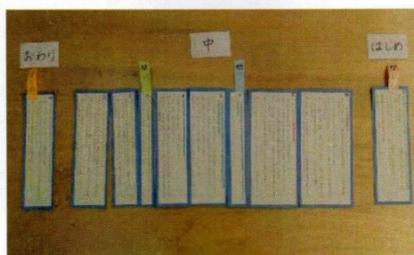
【対象の児童の実態】

- ・文章は初読でも概ね滑らかに読めるが、日常耳にする言葉の意味を知らないことが多い。
- ・文章から、風景や場面、観察や実験の手順などをイメージできない。
- ・長文の物語になると時間経過や展開が分からなくなる。

【行った補充指導】

- ・学習用語の確認「はじめ・中・終わり」「問い・こたえ・まとめ」「頭括型・尾括型・双括型」
⇒魚の図を使って、「頭括型・尾括型・双括型」を視覚的にイメージさせる。
- ・文章構成を考える学習。
⇒短冊状の教材文を使い、三段構成を操作しながら考える学習。(写真⑤)
- ・内容理解の学習。
⇒問いと答え、論の展開を色分けした板書用のセンテンスカードを使い内容と文章構成が視覚的に分かるようにする。(写真⑥)

⑤



⑥

